



えんじゅ

春日市立春日小学校

校長室便り No.5

令和元年6月5日

文責：校長 福島

運動会の先にあるもの



「校長先生、てるてる坊主を作りました。」朝、無邪気に子ども達が話してくれました。その願いが通じたのか、何とか雨も降らず、運動会を終えることができました。たくさんの応援、そしてご協力をいただきありがとうございました。

子ども達、頑張りました。2週間半の練習でしたが、その中で印象的な出来事がありました。

校長室の窓からは、運動場の練習風景が見えます。木の下の子のベンチには、見学の子もが座っています。練習の様子を見ていると、どの学年の見学者も、可能な範囲で踊りを踊ったり表現のカウントをとったりして、学習にしっかりと参加しています。「一緒にやりたい」という気持ちが伝わってきます。「みなで創り上げる」ことを大切にしていたのでしょう。

見学者がこんなに意欲的に取り組む運動会は初めてでした。

ある日の昼休み、私は運動場に土を入れていました。すると6年生の子ども2人がやってきて、「校長先生、手伝いますよ。」と言ってくれました。土を均すのを手伝ってくれました。掃除時間になってもやると言ってくれましたが、「気持ちだけ受け取るから掃除に行っておいで。」と送り出しました。嬉しかったです。

手前味噌ですが、春日小の先生達はていねいにきっちりと教えるべきことを教えていると思います。「みんなの気持ちを一つにするというのはこうすることだよ。」「大変そうな人がいたら声をかけるんだよ。」そんな指導がベースとなって生まれた2つの事例だと思っています。

一生懸命取り組む心地よさ、回りの人を元気にする行動、みんなで一つの目標を達成する感動、そんなベースとなる力を育んだ運動会でした。その先に子ども達のどんな主体的な行動が生まれてくるのかワクワクします。それを見極め、自覚させることが私達の仕事です。